



## 6月議会安道よし子の一般質問

# 施設の耐震化早期に完了へ

東日本大震災を受け、大地震から子どもたちを守るために、施設の耐震化は急務となっています。

入間市の小中学校校舎の耐震化は近隣市に比べ遅れています。

「耐震性の弱い危険度の高い建物は、前倒しで実施すべき」と求めると、「計画に沿って行うが出来る限り努力する」との姿勢を示しました。

### 保育所・学童保育室の安全確保を

市内唯一公立のあずま幼稚園や公立保育所・学童保育室の施設も老朽化しています。私は、幼い子どもたちが過ごす場所の安全は最優先に確保されるべきと、安全対策を求めました。

市長は、「あずま幼稚園は、昭和43年建設の建物。早急に2次診断を実施し応急対応する。保育所の旧耐震の建物については、27年度完了をめざす。学童保育室は、旧耐震の建物について、1～2年間に耐震診断を行い結果を見て対応する」と答えました。

### 危険性の高い建物は直ちに改修を

私が、「校舎の耐震化は早期に完了すべき」と質すと、市長は「耐震化が遅れている事を認め、校舎は25年度、体育館は27年度100%完了に向け取り組む」と答えました。

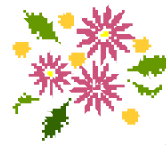
2010年度小中学校耐震化率	
全国	73.3%
埼玉県	69.1%
入間市	58.1%
狭山市	68.8%
所沢市	69.8%

## 入間市でも放射線量の測定と公表を

福島原発事故により、放射能への不安が広がっています。国、県の基準が曖昧なため、私は、市民の不安に応え市独自で、放射線量の測定・公表をすよう求めました。市長は「6月中に測定し、結果を公表する」と答弁。測定場所は市内15カ所で、保育所、小学校、中学校で測定し、結果は市のホー

ムページに公表。(測定結果は裏面に記載)

私は、測定の継続化と学校の植え込みや側溝、公園の水辺や芝生、園庭の砂場など、丁寧な測定も必要と求めると、継続して測定し、簡易測定器を購入し丁寧な測定も行うと答えました。測定器の貸し出しも検討中とのこと。



いつもはつらつ

# 安道よし子の市議会通信

No. 24  
2011年7月号



日本共産党市議会議員

大震災から4か月余りになりますが、福島原発事故の収束の目途は、未だにありません。むしろ被害は拡大し、不安が広がっています。今議会では大震災を受けて、大災害から子どもたちを守るために、「施設の耐震化と放射能の問題」を一般質問で取りあげました。子どもを守るのは大人の責任であり、行政の役割です。安心できる未来のために、いま、力を尽くすときです。



## 東町5丁目の砂利道が舗装に

東町5丁目の砂利道の舗装化は、地元地域の長年の願いでした。

地域の方々や自治会役員のみなさんなど多くの方々が市に繰り返し要請し、改善を求め努力してきたこれまでの経緯があります。



私も議会の一般質問で取り上げ、地域のみなさんと

一緒に市に道路の改修を繰り返し求められました。(左記写真の道路)

### 道路改修に補正予算が計上

3月議会で、この砂利道の改修工事への補正予算が決定。担当課では、すでに、地元の願いに応え、一日も早い完成を目指し工事に着手しています。長年の地域の願いや努力が実ります。

## みなさんの声を届け頑張ります

安道よし子の連絡先      どんなことでもお気軽にどうぞ  
電話・Fax 04(2962)8082      携帯 090(4811)0553

# 長期・広域の放射能から生活守れ

6月定例会市議会

## 原発事故の意見書採択

# 原発廃止し自然エネルギーへの転換を

### 共産党は原発廃止を主張

日本共産党入間市議団は4名全員が一般質問を行いました。それぞれの議員が防災行政、放射能対策、エネルギー政策と地域の懸案事項を取り上げました。

多くの議員が、災害対策や防災対策などを取り上げましたが、原発からの撤退を主張したのは日本共産党入間市議団だけでした。

日本共産党は5年から10年の期限を決めた原発廃止を政府に提言しました。

日本は、太陽光、風力、バイオマス、波力、地熱などの自然エネルギーが、大変豊富です。

今は、原子力の特別優遇のもと、国のエネルギー関連予算のなかで、原子力関連が約4000億円あります。また、使用済み核燃料(死の灰)の再処理費用などに年間2500億円が使われており、合わせて6500億円です。一方で、自然エネルギーをふくむ新エネルギー関連予算は1500億円です。

政策を転換すれば、6500億円の資金を、自然エネルギーの財源に振り替えることができます。

今後も共産党市議団は、危険な原発依存から持続可能な自然エネルギーへの転換を求めています。

### 市内14カ所の放射線測定結果

測定日	学校名	マイクロシーベルト 測定値(μSv/時)	
		50cm	100cm
		6月29日	豊岡小学校
	扇小学校	0.060	0.059
	黒須小学校	0.059	0.058
	高倉小学校	0.063	0.063
	黒須保育所	0.070	0.065
	藤沢小学校	0.058	0.055
	藤沢第二保育所	0.057	0.056
	東金子小学校	0.064	0.062
	金子小学校	埼玉県が7月中に調査を実施	
	金子第一保育所	0.058	0.056
6月30日	宮寺小学校	0.052	0.050
	二本木保育所	0.046	0.044
	武蔵中学校	0.054	0.051
	西武小学校	0.064	0.060
	野田中学校	0.048	0.046

意見書は、事故を一刻も早く収束させること、事故の現状や放射能汚染に関する情報、被曝防護に関する情報を国民に提供し、適切な範囲の住民を速やかに避難させること、国と東京電力は事故の被害を受けた国民に支援と補償を行うこと、原発事故を2度と起こさないために自然エネルギーへの転換を進めること、農産物の出荷規制にかかる放射線量の「暫定規制値」について国際水準に見合うよう見直すこと、以上の5点について国に要請しています。

## 共産党議員の一般質問

小出わたる議員

原発依存から自然エネルギーへ

吉沢かつら議員

住宅耐震補助・消防広域化・地デジ

石田よしお議員

狭山茶汚染対策・防災計画見直し

安道よし子議員

施設の耐震化・放射線量の測定

## 来年からシルバーサービスのタクシー券が廃止に

市が高齢者福祉審議会に諮問した「シルバーサービス事業の見直しについて」の答申内容が、市・執行部から全員協議会で議員に報告されました。

現在、シルバーサービス事業は73歳以上の全ての高齢者を対象に、あんま・マッサージ券、タクシー利用補助券、ラドンセンター利用補助券を配布しています。

答申では、「マッサージ券については23年度から対象年齢を縮小、タクシー券

とラドンセンター券については23年度をもって廃止」としています。

タクシー券は公共交通が不便な地域に住んでいる人や足が不自由な高齢者に喜ばれていた制度です。市が取り組んだアンケートでも「タクシー券をなくさないでほしい」という要望が出されています。

タクシー券がなくなれば、足の確保が困難な高齢者はさらに外出が困難になります。事業を継続すべきです。



原発廃止も主張された今年の平和行進

## 日本共産党市議会報告

2011年7月 発行/日本共産党入間市議会議員団  
連絡先/電話2932-4415 Fax2932-5632

石田よしお	2964-4048	070(5086)2075
安道よし子	2962-8082	090(4811)0553
吉沢かつら	2964-0208	090(3514)3077
小出わたる	2932-7884	090(6542)3883